



林芙美子展 メインビジュアル
箕輪麻紀子《貧乏コンチクショウ》2018年

プレスリリース

2018年4月28日[土] - 7月1日[日]

広報に関するお問合せ: 世田谷文学館学芸部 井波・佐野
〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10 TEL 03-5374-9111 / FAX 03-5374-9120

林芙美子
シコ貧乏
コンチクショウ

展覧会概要

幼少期の行商生活を経て、職を転々としながらも詩や童話を書き続けた林芙美子は、自らの貧困生活へ立ち向かうように、生きる苦しみを吐露し、血みどろの人生を奔放な文体で表現しました。とりわけ『放浪記』は、映画やテレビドラマ、そして舞台などに姿を変え、ひた向きに力強く生きる女性を描いた名作として、戦前・戦後を通じて多くの読者を魅了し続けています。



林芙美子自画像 1932～33年頃
新宿歴史博物館蔵

芙美子は1925年、世田谷区太子堂の二軒長屋で詩人・野村吉哉と暮らしました。肺を患った野村は暴力的で争いが絶えない辛い生活でしたが、近隣に暮らす作家仲間を支えられた時期でもありました。しかし、翌年には野村と別れ世田谷を離れます。新宿区中井に自宅を構えるまで、住まいを転々とし旅を愛した林芙美子。その作品は作者自身の前向きな人生観に裏打ちされており、労苦の多かった人生経験がその奥行を形作っています。

本展では宿命的放浪の作家・林芙美子のことばを、現代の私たちへのメッセージ《幸福に生きるための処方箋》と捉え、原稿・書簡・絵画など約250点の資料をご紹介します。

展覧会名	林芙美子 貧乏コンチクショウ —あなたのための人生処方箋—
会 期	4月28日（土）～7月1日（日）
会 場	世田谷文学館
開館時間	10:00～18:00 *展覧会入場、ミュージアムショップの営業は17:30まで
休 館 日	毎週月曜日（月曜日が休日の場合は開館し、翌日休館）
観 覧 料	一般800（640）円／65歳以上・高校・大学生600（480）円／小・中学生300（240）円 障害者手帳をお持ちの方400（320）円 ※（ ）内は20名以上の団体料金割引料金・「せたがやアーツカード」割引料金 *4月28日（土）は開館記念観覧料無料 *5月4日（金）は65歳以上無料 *6月2日（土）は地域催事に伴う観覧料無料



林 芙美子(はやし・ふみこ)

小説家・詩人(1903～1951年)。本名フミコ。長谷川時雨主宰の「女人芸術」に自らの体験に基づいて描いた「放浪記」を連載し、1930年に「新鋭文学叢書」の一冊として刊行、ベストセラーになる。以後、『風琴と魚の町』『晚菊』『浮雲』など、短い生涯で多くの名作を残した。作品はどれも市井の人々に根差した視点で描かれ、幅広く親しまれている。1924～25年にかけて世田谷区内の太子堂や瀬田に居住した。

『放浪記』 —生涯をかけた代表作—



『放浪記』・『続放浪記』(改造社)

1928年・24歳の芙美子は、「歌日記」と題した日記体の原稿を、創刊されたばかりの雑誌「女人芸術」にもちこみました。この作品は「放浪記」と副題が付けられ連載が始まりました。愛読者が徐々に増えていき、30年に改造社「新鋭文学叢書」の一冊として刊行されると、半年で40版を重ねるほどの好評となり、60万部という、当時としては破格の大ベストセラーとなったのです。『放浪記』は人々に最も親しまれてきたのと同時に、芙美子自身も加筆・訂正を加えるなど生涯にわたってこだわり続けた、自他ともに認める代表作です。

太子堂二軒長屋での暮らし

「今朝、私たちは命がけであらそつた。」「私は足蹴にされ、台所の揚げ板のなかに押しこめられた時は、このひとは本当に私を殺すのではないかと思った。」「あのひとはそばにあったナイフを私に放りつける。小さいナイフは畳に突きささった。」

『放浪記』には太子堂の二軒長屋に同棲していた野村吉哉とのどん底の暮らしぶりが描かれています。野村の暴力行為が随所に描写されており、病や貧困がいかにかに人の心身を食い荒らし、残酷なほど人間の粗暴性をむき出しにするものなのかが読み取れます。

一方で、貧乏をするという事が固い結束を生み出すこともありました。壺井栄とは、二軒長屋を隣同士で借りて暮らしていましたが、芙美子は家事が得意で、長年の放浪生活の中で身につけたさまざまな生活の知恵を榮に教えました。また、平林たい子が近くに部屋を借り、それぞれ米や食べ物を融通し合うなど親しく交流しました。『放浪記』は、芙美子たちの生活に密着した、当時の世田谷での若い作家たちが暮らしを共にしていた様子がいきいきと描かれている作品なのです。



太子堂の二軒長屋



靴 (屋久島取材時に履いた靴)
新宿歴史博物館蔵



トランク (ペン部隊漢口従軍時に使用)
新宿歴史博物館蔵

林芙美子 貧乏 コンチクショウ展

みどころ

1. 今も昔もかわらない、若者の貧困と悩み

アルバイト

D V

シェアハウス

カフェー女給、恋人からの暴力、二軒長屋での共同生活……

職を転々とし食いつなぐ生活をしていた芙美子の青春時代は、現代のワーキングプアにも通じる、厳しいものでした。本展では、そんな芙美子の人生をプレカリアートの視点で読み解き、「家族」「世田谷」「男女」「貧乏」「生きる」の5章構成(予定)で展示いたします。 ※プレカリアート…「不安定な」(プレカリオ)と「労働者階級」(プロレタリアート)を組み合わせた造語。非正規雇用や失業など、不安定な雇用を強いられた人々のこと。

2. 芙美子のかづよい詩や言葉

芙美子は散文の中に詩を挿む方法を好んで用いました。特に『放浪記』は、センテンスごとに改行し余白をとる日記体文章のため、1日分の記述が一編の詩の様相を呈しています。

自らの気持ちを思うがまま吐露した野性味あふれる芙美子のことばは、彼女の自由奔放な精神と相まって、飢えや貧困を吹き飛ばし、時代を超えて私たちを励まし続けています。

ああ二十五の女心の痛みかな！

神様 コンチクショウ と吐鳴りたくくなります

馬鹿にするな 馬鹿にするな

お腹がすいても 職がなくっても ウヲオ！

男なんかどうでもいいの 抱きあって寝るだけのこと

私はお釈迦様に恋をしました

力だ 力だ 力だ！

私はビンボウ故 男も逃げて行きました

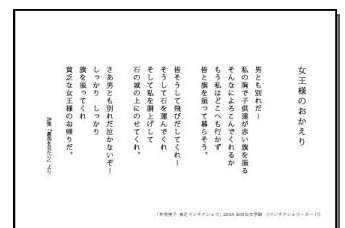
花の命は短くて 苦しきことのみ多かりき

3. <<コンチクショウ>>カードをポケットに！

芙美子の詩をお持ち帰りできる<<コンチクショウ>>カードをご用意。あなたの心に触れた詩の一節が、人生の処方箋になるかもしれません。展示を巡りながら全20種類のカードを収集してみてください。

芙美子の選りすぐりの詩が掲載されるとともに、自分の言葉を綴ることができる
オリジナル手帖をミュージアムショップで販売します。

・コンチクショウ手帖 A6判 144頁(予定) 価格未定



林芙美子 貧乏 コンチク ショウ

関連イベント

1. 朗読会 林芙美子作品を読む

4月28日(土) 14:00~15:00

[出演] ふみのしおり(新宿歴史博物館ボランティア朗読の会)

[会場] 1階文学サロン

[参加費] 無料[定員] 先着150名[申込] 当日受付(13時30分開場)



2. 朗読ショー★貧乏コンチクショウ

6月30日(土) ① 14:00~ ② 16:30~

昭和の香りがただよふ日本の雑芸レビュー団が登場!

会場を流しながら芙美子の詩を朗読するパンチの効いたひとときを一緒にどうぞ。

[出演] デリシャスウィーツ

[会場] 2階展示室 [参加費] 無料

[申込] 当日、直接会場にお越しください ※入場は展覧会チケットが必要です

3. フィールドワーク 芙美子のまちを歩く・落合篇

5月26日(土) 13:30~16:30

芙美子が晩年の10年間を過ごした

新宿区・中井の家(設計:山口文象)を訪ねます。

[参加費] 300円(入館料、傷害保険、資料代込み)[定員] 20名 ※事前申込制

[申込締切] 5月12日必着

[申込方法] 締切日までに往復ハガキに ①イベント名、②参加者名・年齢(2名まで連名可)、
③代表者の住所・電話番号を明記のうえ、世田谷文学館「林芙美子」係へ。
返信面にも代表者の住所・氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選。



4. セタブンマーケット+烏山下町まつり

6月2日(土) 10:00~15:00

思春期を広島県・尾道で過ごした芙美子にちなみ、「ひろしまブランドショップTAU」から広島のグルメをお届けします。セレクト書店、ワークショップなどを開催するミニマーケットをお楽しみください。

当日は展覧会も無料となります。

林芙美子
貧乏
コンチク
ショウ

広報用貸出画像



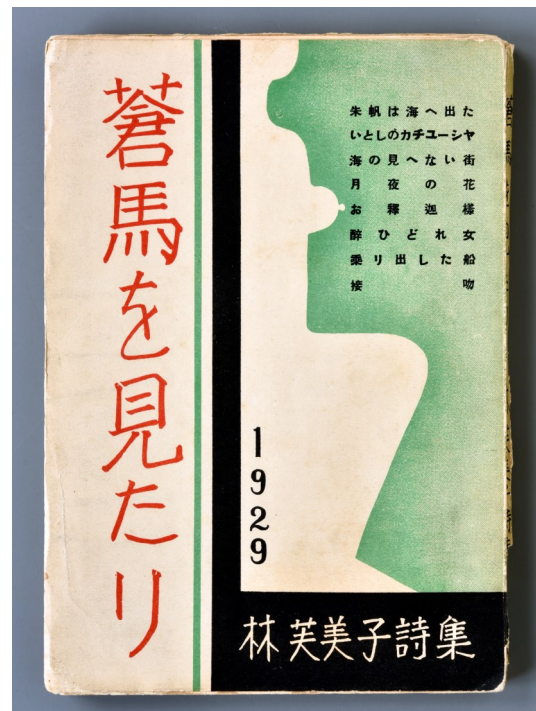
画像① 展覧会フライヤー



画像② 『放浪記』改造社 1930年

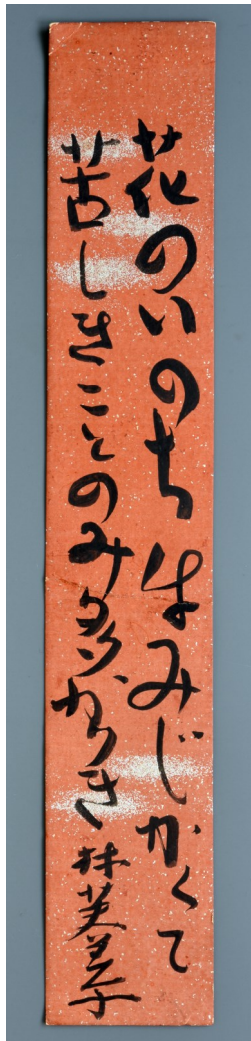


画像③ 《自画像》 1932、33年頃 新宿歴史博物館蔵



画像④ 『蒼馬を見たり』南宋書院 1929年

林芙美子 貧乏コンチクショウ



画像⑤ 自筆の短冊



画像⑥ 『浮雲』六興出版社 1951年



画像⑦ トランク (ベン部隊として漢口従軍時に使用) 新宿歴史博物館蔵



画像⑧ 原稿「浮雲」 新宿歴史博物館蔵

林芙美子 貧乏コンチクショウ

—あなたのための人生処方箋—

広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部 井波・佐野 行

Fax : 03-5374-9120

E-mail : webmaster@setabun.net

展覧会広報用画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、E-mail もしくは Fax にてお申し込みください。折り返し、担当者より E-mail にて J P E G データで画像をお送りいたします。

本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、刊行・更新前に校正紙を P D F 等でお送りください。また、刊行後掲載誌を 1 部、お送りいただけますようお願い申し上げます。

【広報用画像貸出条件】

- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトをご検討の場合は担当までご相談ください。
- ◆画像データは、ご使用後必ず消去してください。
- ◆画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- ◆インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後は W E B サイトから必ず削除してください。

雑誌名・番組名・WEB サイト名 _____

媒体種別 _____ 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEB サイト

発売・放送・更新予定日 _____

御社名 _____

御担当者名 _____

御住所 _____

Eメールアドレス _____

電話番号 _____ F A X 番号 _____

画像使用の際は、下記クレジットを必ず付記し、掲載して下さい。

<input type="checkbox"/> 画像① 展覧会フライヤー	<input type="checkbox"/> 画像⑤ 自筆の短冊
<input type="checkbox"/> 画像② 『放浪記』改造社 1930 年	<input type="checkbox"/> 画像⑥ 『浮雲』六興出版社 1951 年
<input type="checkbox"/> 画像③ 《自画像》1932、33 年頃 新宿歴史博物館蔵	<input type="checkbox"/> 画像⑦ トランク（ペン部隊として漢口従軍時に使用） 新宿歴史博物館蔵
<input type="checkbox"/> 画像④ 『蒼馬を見たり』南宋書院 1929 年	<input type="checkbox"/> 画像⑧ 原稿「浮雲」 新宿歴史博物館蔵